

教養部会准教授 キアラ・ザンボルリン

1. 研究活動

＜学術論文＞			
Italian opera between educational linguistics and intercultural education.	2011. 8	In Alison Stewart (Ed.), JALT2010 Conference Proceedings, pp. 350-357. Tokyo: JALT.	台本解釈における理解の問題について
Frammenti d' opera persi (in traduzione). Lo strano caso della camicia di Lola, e la semiotica del bacio.	2011. 1	Edoardo Crisafulli & Maria Katia Gesuato (Eds.), Atti della Settima Settimana della Lingua Italiana nel Mondo. pp. 86-102. Tokyo: Istituto Italiano di Cultura.	
Maggia Federica, Francesca Miscio, Antonio Quagliari, Vincenzo Spinuso & Chiara Zamborlin. Opera Prima : Un manuale innovativo di italiano L2.	2012. 2	A.S.I.L.S. < http://www.asils.it/documenti-pubblici.html >	『OPERA PRIMA 1』について（＜教科書＞を参考）
Manuale d' amore : How young Japanese people perceive/evaluate the communication style of young Italians. A cross-cultural study on romance.	2012. 3	『名古屋芸術大学研究紀要』33号 pp.	＜研究発表＞(1)～(6)を参考
＜教科書＞			
F. Maggia, F. Miscio, A. Quagliari, V. Spinuso, & C. Zamborlin 『OPERA PRIMA 1』	2011. 1	東京、イタリア文化会館・朝日出版社	2010年7月から東京イタリア文化会館（イタリア外務省）の『日本におけるイタリア語・イタリア文化教育委員会』の委員として活動させていただき、イタリア外務省後援の『OPERA PRIMA』プロジェクトに参加することになった。このプロジェクトで日本で教育活動をする他のイタリア人や日本人の研究者と共に、『OPERA PRIMA1』という教科書を作成した。（レベール A-1-1）

F. Maggia, F. Miscio, A. Quagliari, V. Spinuso, & C. Zamborlin 著者、菅田 茂昭 (早稲田大学名誉教授) 編者『文法の手引』	2011. 1	東京、イタリア文化会館・朝日出版社	『OPERA PRIMA 1』の文法の手引
<研究発表>			
(1) Young Japanese Perception of Communication Strategies in Italian Lovers' Talks.	2011. 7. 7	The 12th International Pragmatics Conference, July 3-8, 2011, The University of Manchester (UK), (Poster session)	2011年度は、本学で担当している教養科目「異文化入門 イタリア」におけるビデオ教材の利用及び効果についての研究を行いたいと思いました。この研究を行うために「2011年度短期海外出張研究助成」と「2011年度研究助成」を重ねて申請しました。研究テーマは、日本人の若者とイタリア人の若者のコミュニケーションスタイルの語用論的な比較でした。概して、異文化間コミュニケーションに関する語用論の研究は、異言語コミュニケーションで発生する誤解や外国人が異なっていると認識するメカニズムを探ることを目指します。私の研究は4つのエピソードから成り立つイタリア映画『イタリア的恋愛マニュアル』(Manuale d'amore, 2005年)に基づいています。イタリアで人気があったラブコメディです。私の研究の対象になったエピソード(25分)のタイトルは「恋」であり、主人公は現代のイタリアの若者です。私の研究では、その主人公たちのコミュニケーションスタイルが同じ年頃の日本人の大学生にどのように解釈されるのかということを探ってみたいと思いました。そのためアンケート調査を作成しました(アンケートはNUAの33号の研究紀要に投稿した論文に含まれています)。
(2) Introduzione alla pragmatica interculturale e sue implicazioni glottodidattiche.	2011. 9. 26・9. 27	University of Parma (Italy), Corso in Didattica dell'italiano (Course in Italian language teaching methodology), Department of Italian Studies. (Invited lecture)	
(3) Young Japanese perception of Italians' communication styles. A case of cross-cultural mismatch in framing strategies.	2011. 9. 30	University of Fribourg (Switzerland), Lunchtime Seminar, Department of Psychology. (Invited lecture)	
(4) Comunicare interculturalmente: Una questione di stile.	2011. 11. 6 午前	Giornata degli Italianisti (イタリア語研究者の集い), Tokyo, Italian Cultural Institute. (Invited lecture)	
Principi glottodidattici di OPERA PRIMA. 教授法セミナー	2011. 11. 6 午後	Presentazione del libro di testo OPERA PRIMA edito dall'IIC-Tokyo イタリア文化会館編「オペレプリマ」の出版記念イベント。	
(5) Stili della comunicazione: Manuale d'Amore「コミュニケーションスタイル:『恋愛マニュアル』」	2011. 11. 19	イタリア言語・文化研究会の第121回例会、早稲田大学イタリア研究所、早稲田大学戸山(文学部)キャンパス。	結論: ①人間は言葉でコミュニケーションする時、その言語の文法規則だけでなく本には書かれていない、明文化されていない規則に従います。 ②それらの規則は文化的価値観に基づき、個々の文化圏に属する人たちに共有されるものです。 ③この価値観は人々の「言語イデオロギー」を形成し、同じ価値観を共有する人々は同じ「言語イデオロギー」を共有します。 ④ところが、文化圏が異なると価値観やそれに基づいた「言語イデオロギー」が変わります。 ⑤コミュニケーションスタイルに関してイタリア人(パルマ大学)と日本人(NUAと早稲田大学)のアンケートの答えと感想を比べると、以下の異なったパターンが際立ちました:日本人学生にはイタリア映画の主人公はあまりにも断定的に感じられました。主人公の感情や意見の伝え方はあまりに直接的

			と感じられました。更に主人公の積極的な行動はあまりにも押し付けがましいととらえられました。日本人学生の感想では「遠慮」という言葉や「相手の気持ちを傷つけないように気をつけなければならない」という意見がよく見られました。
(6) Shocking Discourse Styles : The Manual of Love.	2011. 11. 20	The 37th JALT International Conference on Language Teaching and Learning, 18-21 November, 2011, Tokyo, National Olympics Memorial Youth Center.	一方イタリア人学生の感想を見れると「明示的なコミュニケーションスタイルの方が望ましい」という傾向が現れました。しかし、どの文脈によってどのコミュニケーションスタイルに従うべきかについては最終的に個人差があります。例えば、映画の主人公のコミュニケーションスタイルがとても気に入った日本人学生もいました。教育的な観点から見れば、言語や文化によってコミュニケーションスタイルは大きく異なることがあるという意識を持つことが大切です。もちろん、違った文化的価値観や異なった言語イデオロギーをかならずしも受け入れる必要はありません。自分の文化圏におけるコミュニケーションのパターンは、一つのパターンにすぎないことを意識する必要があります。そうすることによって、相互尊重に基づいた異文化間理解が生まれます。

2. 教育活動 (教育実践上の主な業績)

大学院授業担当 ■有 □無

授業科目 イタリア語 I・II・III		2011 年度「音楽の世界第」第 8 回 (6 月 13 日)、 E lucevan le stelle「星はきらめき」についての考察.『トスカ』の Cavaradossi のアリアを解釈した。更に、歌詞に基づきイタリア語ディクシオンのミニレクソンを行った。
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
口頭コミュニケーションを通じて、文法規則の獲得を目指した授業を行った。I、II、III は進行異なる 3 つのレベルを指す。ヨーロッパ言語共通参照枠に基づき：イタリア語 I → レベル A1-1、イタリア語 II → レベル A1、イタリア語 III → レベル A1-2。	※ Keynote プレゼンテーション ※ オリジナル問題の作成 ※ プログレッシブ評価 (小テストは 3 回行い、4 回目のテストは口頭試験)。	
授業科目 異文化入門 (イタリア)		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
異文化間コミュニケーションの以下側面に焦点を当てた：①語用論、②非言語コミュニケーション、③感情のコミュニケーション、④コミュニケーションスタイル、⑥ビジュアルコミュニケーション (美学)、⑦食文化。	※ 自作のプリント ※ コミュニケーションスタイルに関するアンケート調査 ※ 映像教材 ※ プログレッシブ評価：小テストは 3 回行い、4 回目は感想に基づいたレポート)。	

授業科目 舞台言語表現演習 (大学院)	
◆前期 □後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
授業内容：イタリア語の発音ルールの勉強及び学生の演奏曲目の歌曲の歌詞の解釈。発音：①九つの母音→U, 開いたと閉じたO, 開いたと閉じたE, 中間OとE,A,I.②子音→N, GN, V, B, F, C, G, GL, L, SC, S, Z, R.③イントネーションについての考察。④オペラのアリア選集。毎回伴奏者に来てもらい、学生が歌いながら正しいイタリア語発音を身につけるように授業を行った。	イタリア語の発音ルールの研究のための教材を作成した。来年度までにその教材は教科書として発行する予定。
授業科目 外国語研究 (イタリア語)	
□前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
イタリア語発音やイントネーションの勉強を始め、口頭でのコミュニケーションに焦点を当てて授業をおこなった。	「OPERA PRIMA 1」のDVDを試用した。

3. 学会等および社会における主な活動

IPra International Pragmatics Association	会員	
JALT Japan Association for Language Teaching	会員	
AISTUGIA Associazione Italiana per gli Studi Giapponesi	会員	
Linguistic Association of West Japan 西日本言語学会	会員	